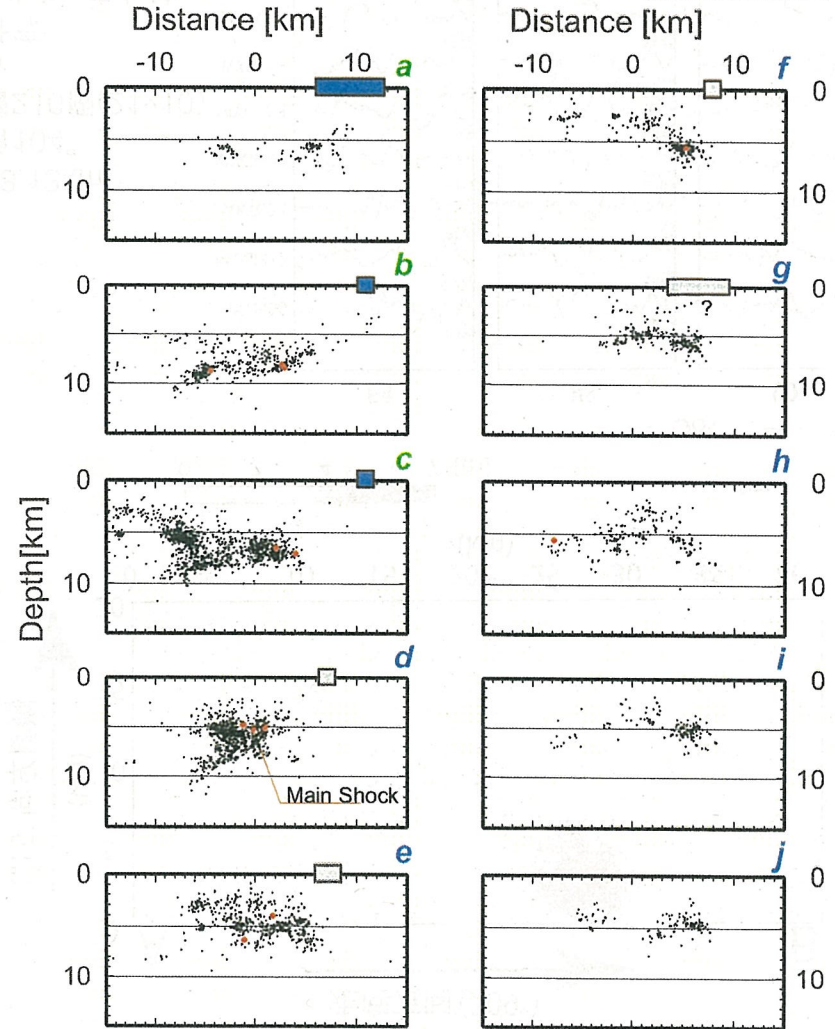
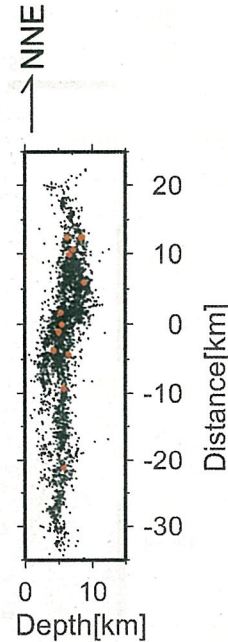
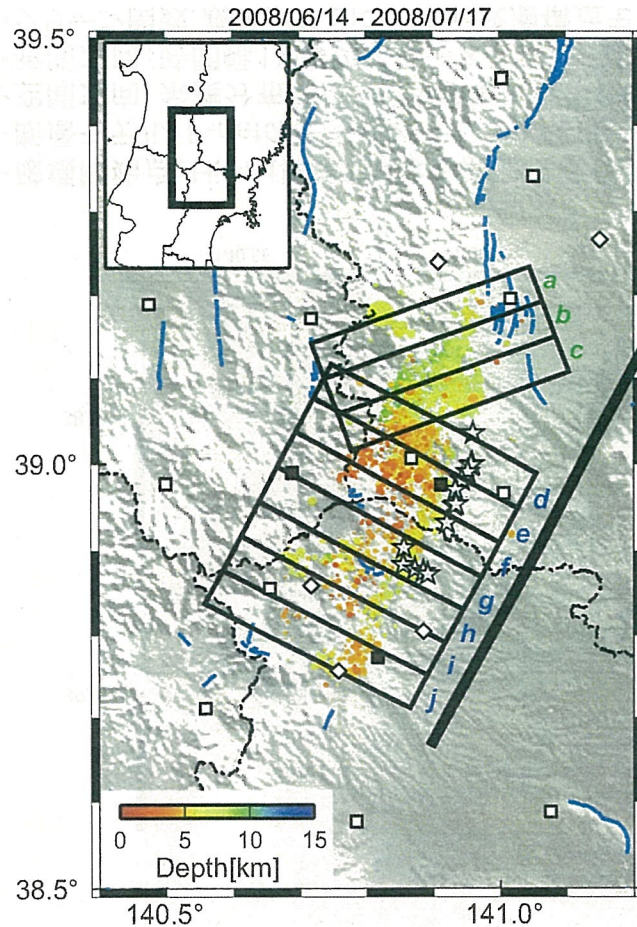


# 2008年岩手・宮城内陸地震：Double-Difference 法により求めた震源分布

オンライン観測点のデータを用いて、DD法により震源再決定を行った。

震源域は、大きく、北部・中部（以上、岩手県）・南部（宮城県）の3セグメントに分けられる

- 震源域北部では、複数の南西傾斜の活動が存在する。活動は深さ7~10kmで活発。
- 本震を含む中部セグメントでは、西部に浅い活動があるほか、地表地震断層に繋がる西傾斜の活動の存在を確認することが出来る。
- 北部・中部に比べ、南部セグメントの余震活動は低調である。地震発生層下限(D90%)付近に活動が集中しており、余震域東端(距離5km付近)で活発である。



- 活断層
- ★ 地表地震断層出現位置（産総研報告による）
- 防災科研 Hi-net 観測点（定常点）
- 防災科研臨時点
- ◇ 東北大学観測点（定常点・臨時点）

- 活断層 (■) および地表地震断層 (□) のおおよその位置
- 各領域内のおおよその D90% の位置 [Matsumoto, 2007]
- M4.5 以上の地震の震源位置